

国史跡下布田遺跡整備事業の概要

1 取組の経過

- ◆下布田遺跡は、南関東では数少ない縄文時代晩期の重要な遺跡として評価され、1987（昭和62）年5月12日に国史跡に指定された。
- ◆調布市教育委員会では、2019（平成31）年3月に「史跡下布田遺跡保存活用計画」を、2021（令和3）年3月に「史跡下布田遺跡整備基本計画」を策定し、国庫補助事業として史跡整備事業を推進している。令和9年度中の開園を目指している（*1）。

2 令和4年度取組 ～基本設計の策定～

- ◆令和4年度は、これまでに策定した2つの計画の趣旨を踏まえつつ、①下布田遺跡市民ワークショップにおける市民意見（裏面参照）を整理し、「下布田遺跡保存活用整備検討委員会（*2）」での検討に活用する。②国史跡下布田遺跡保存活用整備検討委員会における検討結果及び庁内関係部署との調整内容を「基本設計」に反映する。

（*1）整備スケジュール概要

- ・令和4年度「基本設計策定」⇒令和5年度「実施設計策定」⇒令和6年度～令和8年度「工事」⇒9年度「開園」

（*2）下布田遺跡保存活用整備検討委員会の概要

- ・委員構成：学識経験者（考古3，都市計画1，都市計画・環境学1，造園学1）6人，文化財保護審議会（植物）1人，地域住民（地元地区協議会，自治会）2人，学校長（布田小学校）1人，市職員（緑と公園課，都市計画課，営繕課）3人，計13人
- ・実施日程（予定）：第1回検討委員会（設計条件，設計方針等の検討） 令和4年8月25日（木）
第2回検討委員会（設計素案の検討） 令和4年11月（予定） 第3回検討委員会（基本設計案の合意形成） 令和5年2月（予定）

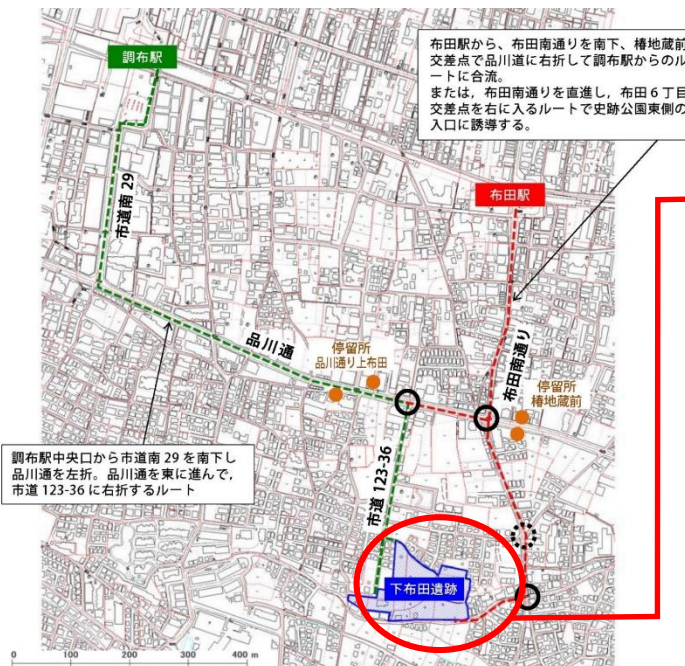
3 整備テーマ及び対象範囲 ～整備基本計画～

- ◆整備テーマ「みんなで育む・感じる・発見する縄文のふるさと」

- ①史跡の確実な保存，②縄文時代の生活技術と精神世界を表現する③自然環境を活かした憩いの空間，④来園者の利便性向上と体験型活動の充実，⑤市民参加による管理体制づくりを基本方針に整備事業を推進する。

- ◆整備の対象範囲（短期整備）

- ①ガイダンスゾーン，②遺跡体験ゾーン，③交流ひろばゾーン，④自然ふれあいゾーン



中期整備（公有化完了後）では、ハケ上部分の全面を遺跡体験ゾーンとして整備する。



みんなで育む・感じる・発見する縄文のふるさと

国史跡下布田遺跡 史跡整備ニュースレター

市民ワークショップで基本設計の検討

史跡公園整備に向けた基本設計へ市民意見を反映させるため、市民ワークショップを開催しました。第3回、第4回の検討結果をお知らせします。

第3回「下布田遺跡の現地をみてみよう」

令和4年6月19日(日)、13名の方に参加いただき、第3回ワークショップを開催しました。第3回は、下布田遺跡の現地や出土遺物を見学し、現地において気づいた遺跡の魅力や整備において反映させてほしい点について意見交換をしていただきました。

1. 下布田遺跡の見学

下布田遺跡出土の土版（縄文人のお守り）や石棒集積遺構の石棒を実際に手にしていただき、今から2800年前の遺物の手触りや重さを実感していただきました。下布田遺跡の現地見学では、「ここから花火大会がよく見られるんだ」「史跡南側の道路は通学路だけ道幅が狭くて危ない」「布田崖線のくぬぎや朽木、腐葉土が昆虫には大切」など様々な視点から意見が出ました。

2. 参加者意見交換

見学後、現地での気づきについて意見交換していただきました。縄文時代の学びについては「縄文の祈りなど精神世界の表現について、現地でイメージできることが大事」「ARやVRなどの活用も必要では」「小学校高学年から中学生にターゲットをしぼった体験学習が必要」といった意見が出されました。参加者共通の意見として、現状の自然環境に配慮しながら、下布田遺跡や縄文時代の学びをはじめとして、様々な体験学習ができるのがよいというものでした。現状の豊かな布田崖線の自然を保全しつつ、史跡整備を推進するという方向性が確認できました。



現地見学の様子（下布田遺跡）



意見交換風景（郷土博物館分室）

【第4号】

令和4年8月9日発行
刊行物登録番号 2022-97
埼玉県郷土博物館文化財係
☎042-481-7656

<http://www.city.chohu.tokyo.jp>



第4回市民ワークショップ「下布田遺跡整備への意見をまとめよう」

令和4年7月17日(日)、8名の方に参加いただきました。第4回は、これまでの検討を踏まえ、基本設計への市民意見をまとめるために、グループワークを行いました。3名の欠席者からも意見の提出があり、グループワークに反映させました。

1. グループワーク

ワークショップテーマに沿って1班は「学び・活用・イベント」、2班は「憩い・防災防災」について意見を出し合っていました。

2. 発表

グループワークで出された主な意見は下表(左)のとおりです。意見と整備基本計画を踏まえ、史跡整備の核となるガイダンス施設に必要な機能が下表(右)です。

縄文の学びにとどまらない多様な活用や、防災防犯、ボランティア活動などに関する意見が出されました。

様々な意見の中でも、将来を担う子どもたちが下布田遺跡や現状の豊かな自然環境について、郷土の宝として愛着がもてるような史跡公園整備が望ましいというのが共通の結論でした。



発表の様子



ワークショップにご参加のみなさま

今後のワークショップについて（予定）

ワークショップでは、公園の整備内容や活用案、将来の管理に至るまで、真剣かつ積極的にご意見を出していただきありがとうございました。今後は、公園利用ルールや管理運営の仕組み作り等を考えるワークショップを予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております！

史跡整備に関する主な市民ワークショップ意見		ガイダンス施設に必要な機能
学び	<ul style="list-style-type: none"> ① 展示解説 <ul style="list-style-type: none"> 縄文時代の理解はデジタルと展示施設を活用 ② 体験学習 <ul style="list-style-type: none"> 縄文の水や植物の復元による縄文の自然に関する学び 縄文の服・調理・土器づくりなど縄文の生活（衣食住）に関する学び 縄文人が見た風景、縄文の歌 小学生・中学生の学びの場 ※ 下布田遺跡の存在価値を継承していくためには、地元の学校との連携が不可欠 ③ 派生する様々な学び <ul style="list-style-type: none"> 生命の学び（昆虫・野鳥観察）・自然の学び（薪・たい肥づくり） 	縄文に関する学習拠点機能 多様な展示、体験事業、学校連携事業など、郷土の歴史・文化を学ぶために必要な展示・学習機能
憩い	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中でお弁当を食べるなど、憩いの場 身近な自然環境の中で散歩やジョギング、自然体験やあそびができる場所 多摩川サイクリストの休憩スポット 	管理運営機能 ガイダンス施設や史跡全体を管理する管理運営主体者の事務所機能
イベント	<ul style="list-style-type: none"> 「遺跡祭り」を開催し、周辺住民に下布田遺跡の価値を知ってもらう 野外イベント（フリーマーケット、多摩川花火、災害対策吹き出し、バーベキュー等） 	交流・活動拠点機能 地域住民の日常的な憩い・市民交流の場としての機能 史跡管理運営の担い手となるボランティア組織の活動拠点機能
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> 公園との境界は低い樹か花壇を設ける わんわんパトロールによる見回り 定期的な草刈り予算確保と実施 	
ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの活用と組織化（ゴミ拾い、見守り、ガイド、広報） 市民サークルとのタイアップ（野鳥観察、写真会、コンサート、野点） 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 遺跡の愛称を市民から募集する。 ・ヤギ除草 	

みんなで育む・感じる・発見する縄文のふるさと

国史跡下布田遺跡 史跡整備ニュースレター

【第4号】

令和4年8月9日発行
刊行物登録番号 2022-97
調布市郷土博物館文化財係
☎042-481-7656

✉ kyouhaku@tw2.city.chofu.tokyo.jp

市民ワークショップで基本設計の検討

史跡公園整備に向けた基本設計へ市民意見を反映させるため、市民ワークショップを開催しました。第3回、第4回の検討結果をお知らせします。

第3回「下布田遺跡の現地をみてみよう」

令和4年6月19日(日)、13名の方に参加いただきました。第3回ワークショップを開催しました。第3回は、下布田遺跡の現地や出土遺物を見学し、現地において気づいた遺跡の魅力や整備において反映させてほしい点について意見交換をしていただきました。

1. 下布田遺跡の見学

下布田遺跡出土の土版（縄文人のお守り）や石棒集積遺構の石棒を実際に手にしていただき、今から2800年前の遺物の手触りや重さを実感していただきました。下布田遺跡の現地見学では、「ここから花火大会がよく見られるんだ」「史跡南側の道路は通学路だけど道幅が狭くて危ない」「布田崖線のくぬぎや朽木、腐葉土が昆虫には大切」など様々な視点から意見が出ました。

2. 参加者意見交換

見学後、現地での気づきについて意見交換していただきました。縄文時代の学びについては「縄文の祈りなど精神世界の表現について、現地でイメージできることが大事」「ARやVRなどの活用も必要では」「小学校高学年から中学生にターゲットをしぼった体験学習が必要」といった意見が出されました。参加者共通の意見として、現状の自然環境に配慮しながら、下布田遺跡や縄文時代の学びをはじめとして、様々な体験学習ができるのがよいというものでした。現状の豊かな布田崖線の自然を保全しつつ、史跡整備を推進するという方向性が確認できました。



現地見学の様子（下布田遺跡）



意見交換風景（郷土博物館分室）

第4回市民ワークショップ「下布田遺跡整備への意見をまとめよう」

令和4年7月17日(日)、8名の方に参加いただきました。第4回は、これまでの検討を踏まえ、基本設計への市民意見をまとめるために、グループワークを行いました。3名の欠席者からも意見の提出があり、グループワークに反映させました。

1. グループワーク

ワークショップテーマに沿って1班は「学び・活用・イベント」、2班は「憩い・防災防災」について意見を出し合っていました。

2. 発表

グループワークで出された主な意見は下表(左)のとおりです。意見と整備基本計画を踏まえ、史跡整備の核となるガイダンス施設に必要な機能が下表(右)です。

縄文の学びにとどまらない多様な活用や、防災防犯、ボランティア活動などに関する意見が出されました。

様々な意見の中でも、将来を担う子どもたちが下布田遺跡や現状の豊かな自然環境について、郷土の宝として愛着がもてるような史跡公園整備が望ましいというのが共通の結論でした。

今後のワークショップについて（予定）

ワークショップでは、公園の整備内容や活用案、将来の管理に至るまで、真剣かつ積極にご意見を出していただきありがとうございました。今後は、公園利用ルールや管理運営の仕組み作り等を考えるワークショップを予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしております！



発表の様子



ワークショップにご参加のみなさま

史跡整備に関する主な市民ワークショップ意見		ガイダンス施設に必要な機能	
学び	<ul style="list-style-type: none"> ① 展示解説 <ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代の理解はデジタルと展示施設を活用 ② 体験学習 <ul style="list-style-type: none"> ・縄文の木や植物の復元による縄文の自然に関する 学び ・縄文の服・調理・土器づくりなど縄文の生活（衣食住）に関する学び ・縄文人が見た風景、縄文の森 ・小学生・中学生の学びの場 ※下布田遺跡の存在価値を継承していくためには、地元の学校との連携が不可欠 ③ 派生する様々な学び <ul style="list-style-type: none"> ・生命の学び（昆虫・野鳥観察）・自然の学び（新・たい肥づくり） 	縄文に関する学習拠点機能	管理運営機能 ガイダンス施設や史跡全体を管理する管理運営主体者の事務所機能
憩い	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中でお弁当を食べるなど、憩いの場 ・身近な自然環境の中で散歩やジョギング、自然体験やあそびができる場所 ・多摩川サイクリストの休憩スポット 	多様な展示、体験事業、学校連携事業など、郷土の歴史・文化を学ぶために必要な展示・学習機能	
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・「遺跡祭り」を開催し、周辺住民に下布田遺跡の価値を知ってもらう ・野外イベント（フリーマーケット、多摩川花火、災害対策放棄出し、バーベキュー等） 	交流・活動拠点機能	
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・公園との境界は低い柵か花壇を設ける ・わんわんパトロールによる見回り ・定期的な草刈り予算確保と実施 	地域住民の日常的な憩い・市民交流の場所的機能	
ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの活用と組織化（ゴミ拾い、見守り、ガイド、広報） ・市民サークルとのタイアップ（野鳥観察、写真会、コンサート、野点） 	史跡管理運営の担い手となるボランティア組織の活動拠点機能	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡の愛称を市民から募集する。 ・ヤギ除草 		